

研究課題名	橈骨遠位端骨折後における重症骨粗鬆症に対する治療実態とロモソズマブ短期成績
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	<p>橈骨遠位端骨折（手首の骨折）は、転倒などをきっかけに起こりやすく、比較的若い年代でも見られますが、骨がもろくなる「骨粗しょう症」が関係していることがあります。この骨折は、生涯で初めて起こる骨粗しょう症による骨折となることが多く、一度骨折すると、その後に別の場所の骨折を起こす危険性が高くなることが知られています。しかし、手首の骨折は比較的軽い骨折と考えられやすく、骨粗しょう症の検査や治療が十分に行われないまま経過してしまうことがあります。特に、骨折をきっかけに本来は積極的な治療が必要な「重症の骨粗しょう症」が見つかっていない可能性も指摘されています。</p> <p>この研究では、当院で橈骨遠位端骨折の治療を受けた患者さんを対象に、過去のカルテ記録や検査結果の情報をを用いて、骨粗しょう症や重症骨粗しょう症がどの程度含まれているのか、また骨折後にどのような治療が行われているのかを調べます。あわせて、重症骨粗しょう症の患者さんに対して使用されている治療薬の一つであるロモソズマブについて、治療がどの程度続けられているか、治療後の骨密度の変化についても確認します。</p> <p>本研究は、通常の診療で得られた情報を用いる観察研究であり、新たな検査や治療を行うものではありません。また、研究に参加しないことで診療上の不利益を受けることはありません。この研究によって、橈骨遠位端骨折をきっかけとした骨粗しょう症の早期発見や適切な治療につなげ、将来の骨折を防ぐためのよりよい医療や支援のあり方を明らかにすることを目指しています。</p>
研究対象者	2023 年 4 月から 2025 年 10 月の間にベルランド総合病院整形外科に橈骨遠位端骨折を受傷して受診したかた
利用又は提供する試料・情報の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 年齢</li> <li>② 性別</li> <li>③ 受傷した原因（転倒したのか、転落したのか、交通事故なのかなど）</li> <li>④ 骨密度検査を実施したかどうか</li> <li>⑤ 骨密度の値（初回診察時、治療開始してから6か月と12か月が経過した時）</li> <li>⑥ 骨粗鬆症治療薬による治療（骨折後治療を開始したか、1 年後に治療を継続しているかどうか）</li> <li>⑦ 骨粗鬆症治療薬の種類（どの種類の治療薬で治療をしているか）</li> </ul>
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2026 年 2 月 1 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院 FLS 推進室のみで行います
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は機関の名称	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中暢一
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中 暢一 メールアドレス:nob_tanaka@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL:072-234-2001(代)